

ルリビタキの子への給餌 —雄の羽色の影響—

○森本元（立教大・院理・生命）・上田恵介（立教大・理・生命）

子への給餌分担の問題は、鳥類においてこれまでも盛んに行われてきた研究テーマのひとつである。この問題は性淘汰研究と関連して議論が積み重ねられてきた。特に、派手な雄とつがった雌にとって、つがい相手が良い父親であるかどうか、自身の子に雄親がより多くの投資(給餌)を行うかどうかは、興味の対象となってきた。これについては複数の仮説が提唱されており、各仮説に対して検証が進んでいる。代表的なものとして、派手な雄ほどより多くの投資を行うというものや、逆に派手な雄ほど、よりさぼるというものがある。投資配分の変化の理由として派手な雄のつがい外交尾へ投資と給餌努力のトレードオフなどがあるが、対象種によって複雑な生態学的要因があることが予想される。

ルリビタキ *Tarsiger cyanurus* においても、雄の羽色は雌による選り好みに影響する可能性がある。雄の外見が、1齢時に雌と極似したオリーブ褐色の"鈍色"、2齢以上で鮮やかな"青色"になることが本種の特徴である。今回我々は、1) 親の給餌回数に影響する要因、2) 雄親の羽色の違いが子への投資に関連するか、3) つがい相手の給餌回数に対する反応の有無、について発表する。

給餌回数は野外にて繁殖期のルリビタキの巣を撮影し、雌雄の給餌回数を数えた。撮影は日出後より日没の間に行ない、観察に伴う攪乱を避けるため、後半8時間分のデータを用いた。雌雄ともに年変動や育雛開始日、雛数、子の日齢が給餌回数に影響していた。また、雄の羽色の違いによる影響も認められた。これらの要因の影響は育雛ステージによって異なっていた。また、親の性によって給餌回数へ影響する要因が異なる傾向が見られた。